

第3回 肩の運動機能研究会

開催日時 平成18年9月29,30日

開催場所 文京シビックホール

7-36 肩外転装具使用による足圧分布変化について ～足圧計を用いた検討～

吉田 一也¹⁾、丸山 公²⁾

1) 関町病院 リハビリテーション科 2) 関町病院 整形外科

【はじめに】臨床上、肩関節疾患に対する三角巾や外転装具などの固定装具の使用により腰背部痛を引き起こすケースを経験する。今回足圧計を用い、肩外転装具装着と足圧分布の関係について調べ、肩外転装具装着と腰背部痛の関係について検討したので報告する。

【対象と方法】対象は、肩関節に既往のない健常者25名（男性6名、女性19名、平均年齢 40.32 ± 11.6 歳）。方法は、BREG社製シオルダーアブダクションピロー（以下、Air Bag）装着立位と非装着立位での足圧分布変化をMedicapteurs社製win-podにて計測・比較した。計測は30秒を各2回ずつ行い、計測データを基に左右前後の動揺中心変位と足底の推力圧力比を比較した。統計学的評価にはpaired-T検定を用い、 $P < 0.05$ 未満を有意差ありと判定した。

【結果】(1)前後動揺中心変位は非装着時 4.99 ± 1.22 mm/s、装着時 4.27 ± 1.22 mm/sであり装着時に有意に減少していた。(2)Air Bag装着側前足部の推力圧力比は、非装着時 $20.24 \pm 4.53\%$ 、装着時 $22.34 \pm 3.98\%$ であり装着時に有意に増加した。

【考察】Air Bagの重さや肩が外転位になる事により重心位置が装着側前足部方向に移動する。その重心位置を装着側前足部で踏ん張り、元の状態に戻そうとした為、推力圧力比が増加したと考えられる。前後動揺中心変位が低値を示した事から、姿勢を安定させる為に前後の動きを制限し、装着側前足部で姿勢を調節していたと考えられる。また姿勢を観察すると、体幹が装着側又は反対側に側屈したりと様々な姿勢変化がみられた。このような姿勢が長期にわたり続く事により腰背部痛が引き起こされる可能性が考えられる。

回 日本肩関節学会

会場 .. 大ホール

回 肩の運動機能研究会

会場 .. 小ホール

会期 .. 平成18年9月29日(金)・30日(土)

